

復興するまちを訪ねて



東日本大震災で津波による壊滅的な被害を受けた太平洋沿岸部では、多くの人が故郷を離れることを余儀なくされました。宮城県岩沼市の玉浦地区沿岸も甚大な被害を受け、この地にあつた6集落の住民が玉浦西地区への集団移転を決断。大規模な集団移転としては最も速いペースで事業が進んでいます。

その経緯を本誌で紹介したのが、平成26年4月5月号。その後、まじゅくりはどのように進んでいるのか、一年後の岩沼市を訪ねました。

宮城県岩沼市防災集団移転促進事業レポート 災害に強い「新しい故郷」を 住民自らの手でつくっていく

新しいまちに戻りつつある
温かな暮らしの息づかい

土埃舞う造成地に何台もの重機が動き回り、まだ家はまばら。そんな閑散とした風景が一年を経て、158区画ほぼすべてに新しい戸建て住宅が建ち並び、美しいまちへと変貌を遂げていました。すでに約8割が入居し、夕暮れときには家々の窓に明かりが灯り、生活の気配を感じます。

まちを東西に貫く遊歩道は、被災前の6集落に沿って流れていた貞山運河をイメージして名

付けた「貞山緑道」。道端や公園を彩る木や草花は、住民でつくる「玉浦まぢづくり住民協議会」主催のもと、住民自らが植え、管理をしています。公



大樹公園内にある長谷釜地区のシンボルツリー（イチヨウ）



かつての貞山堀の線形をかたどった緑道。東西方向に各地区の公園、公園兼調整池をネットワークするようにつないでいる

園には玉浦地区で津波に耐えた大イチョウの木などを地区ごとにシンボルツリーとして移植しました。「災害に負けず、緑いっぱい活気あるまちにしたい。住民の願いの象徴なんです」と協議会会長の中川勝義氏も目を細めます。

行政の環境整備と的確な支援が
住民主体の再建を促進

震災から4年。被災者には長い歲月ながら、国内最速での大規模集団移転を実現した背景には、住民と行政との絶妙な連携がありました。

事業を引き継いだ菊地啓夫市長は、「実行段階でも住民が推進し、行政は後押し役」と住民主体を強調しま



続々と住宅が完成

す。その上で許認可の手続きや事業者選定など、行政の役割には迅速性・公平性を重視し、集中的に取り組みました。また限りある予算の有効活用のため、例えば芝生の植栽など町内美化は住民に、公営住宅のペアガラスは寒冷地に必須ゆえ行政負担というように、支援対象と判断理由を公正明確に提示。結果、住民側も「だからこそ優先順位を考え、主体的に動けた」と評価します。

「やってもらうつもりでは、いつまでも進まなかった。やれることをやろうという気概が生まれたのも、行政の環境整備の速さと、応援しながらも甘えさせない『いい塩梅』での後押しのおかげだと思っています」(中川会長)

災害に強いまちには コミュニティづくりが要

合理的な官民連携を評価する傍ら、菊地市長は「移転事業の最大の功労



岩沼市長 菊地啓夫氏



玉浦西まちづくり住民協議会
会長 中川勝義氏

者は「コミュニティの力」と評します。誰もが個人の都合だけでなく、全体を考えた選択をしたことが、結果として満足度の高い事業を可能にしました。

「集団移転は、宅地造成ではなく『まちづくり』。新たにコミュニティを育むことです。行政が担うのは特にハード面ですが、住民の安心や絆を意識しながら支援を行ってきました」

調整池や広い道路、土地を2メートルかさ上げするなどの防災対策、交流の場となる公園や遊歩道の整備、バス停留所の設置やスーパールの建設も進んでいます。そうした安心・安全・快適の実現が、「コミュニティの基礎を支えます。」

「街灯も閑散としていた頃から煌々と点けるようになっていました。無駄という声もありましたが、入居直後の方の不安が払拭され、市民には復興の灯火となりました」(菊地市長)

岩沼音頭とそろいの法被で 今夏、復活祭を計画

春までには残り2割の入居も進み、178戸の災害公営住宅も完成。住民が増え、さらににぎわいを増していきます。

「新しいまちですが、玉浦の失われた歴史と誇りをしっかりと根付かせ、次の世代へと引き継ぎたい」

そう語る中川会長と「玉浦西まちづくり住民協議会」で計画中なのが、震災前の6地区の様子を3次元画像や冊子に残す作業。さらに夏祭りを開催し、奇跡的に残ったそろいの法被を着て岩沼音頭を流し、新旧および近隣の住民同士で交流を深めたいと語ります。

「若い世代にも魅力的なまちにしたい。彼らには故郷となるのですから」

また、地域の伝統継承と維持管理を通してコミュニティの醸成を育むことを目指した防風林の植栽計画が評価され、「第25回緑の環境デザイン賞」



相野釜地区の災害公営住宅



二野倉地区の災害公営住宅



市民バスが区内を運行。
バス停は2カ所設置された

で国土交通大臣賞を受賞。春にはこの植栽を開始します。

住民が植えた芝が春を待つ、公園兼調整池の丘からは、新しいまちなみが一望できます。住民が力を合わせてつくりあげた風景は、これからも故郷の記憶として次世代に受け継がれていくでしょう。